

第 38 回（2021 年度第 6 回）CPD 運営委員会議事録

日時：2022 年 3 月 10 日（木）15:00 ～ 16:30

場所：Zoom 会議

出席者：（順不同、欠席者下線）

須藤亮委員長（会長）、石原直幹事（副会長）、高木真人委員（副会長・CPD 委員長）、奥津良之委員（ECE 委員長）、原龍雄委員（広報委員長）、尾崎章委員（CPD 幹事）、柳川博之委員（CPD 委員）、渡邊誠委員（ECE 幹事）、島田敏男氏（日本工学会事務局）（アンダーラインは欠席）

議 題

0. 委員会名簿の確認について
1. 前回議事録（1/13）の確認について
2. 各委員会報告（CPD、ECE、広報）
3. 第 3 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム報告
4. 2022 年度 CPD 活動の進め方
5. その他

配布資料

- 0-1：第 38 回（2021 年度第 6 回）CPD 運営委員会（本紙）
- 0-2：CPD 協議会役員・委員名簿（2022 年 3 月 10 日）
- 0-3：各委員会名簿（2022 年 3 月 10 日）
- 1-1：第 37 回（2021 年度第 5 回）CPD 運営委員会議事録（案）（2021.1.13）
- 1-2：2021 年度第 1 回 CPD 協議会全体会議議事録（案）（2022.1.13）
- 2-2：CPD プログラム委員会、第 1 回 CPD 活動関係学協会連絡会議の関連資料
- 2-2：ECE プログラム委員会（資料無し）
- 2-3-：CPD 広報委員会 No.6 議事メモ（2022.1.16, 17, 20, 24, メール委員会）
CPD 一口メモ No.13
- 3：第 3 回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム
- 4：（参考）日本工学会 CPD 協議会 2022 年度事業計画(案)・2021 年度事業報告(案)

議 事

1. 委員会名簿確認

CPD 協議会、各委員会の委員名簿（2021.3.10 現在）を確認した。

2. 前回議事録確認

石原幹事より、「資料 1-1：第 37 回（2021 年度第 5 回）CPD 運営委員会議事録（案）（2022.1.13）」の説明があり、前回議事録が確認された。

事務局島田氏より、「資料 1-2：2021 年度第 1 回 CPD 協議会全体会議議事録（案）（2022.1.13）」の説明があり、第 1 回全体会議議事録が確認された。

3. CPD プログラム委員会報告

高木委員長から、今年度事業報告書にも参画が記載されている、日本技術士会 CPD 活動関係学協会連絡会の第 1 回会合が開催され、尾崎幹事に代理出席をお願いしたことが報告され、続いて尾崎委員より資料 1-2 の中の「第 1 回 CPD 活動関係学協会連絡

会議議事録」、「第1回 CPD 活動関係学協会連絡会 次第」、「CPD 活動関係学協会連絡会運営要領」、「技術士 CPD 実績管理の設置・運営規則」、「技術士 CPD 実績管理登録状況（2022年1月末現在）」を使って技術士会で進めている CPD 活動関係学協会連絡会（参加委員は高木委員長）の活動状況が報告された。技術士の CPD ポイント登録を支援する技術士 CPD 実施法人（研修などへの参加証明を発行して技術士の CPD ポイント獲得を支援する）の組織状況などの報告があり、CPD 実績管理の目的で設置された技術士 CPD 実績管理委員会の日本工学会からの委員については高木委員長にお願いすることとした。CPD 協議会 CPD プログラム委員会は引き続き日本技術士会の CPD 活動に協力していくことを確認した。

4. ECE プログラム委員会報告

奥津委員長より、(個人的な活動環境を含む) ECE プログラム委員会及び個別 ECE プログラムの活動状況と今後の委員会予定について説明があった。

5. CPD 広報委員会報告

原広報委員長より、資料 2-3「CPD 広報委員会 No.6 議事メモ」&「CPD 一口メモ No.13」について説明があり、一口メモ「事例：学協会を活用した新技術開発」の記述内容について議論があった。

- ・ 学協会入会を契機とする社会人博士課程入学・研究開発推進という話だが、CPD 協議会の HP に載せるので、「CPD」とか「継続教育」といった言葉が欲しい。
- ・ 産学連携契約なし特許出願の話は、誤解を生まないようにここでは削除する。
- ・ その他、社会人博士課程活用のインセンティブは何かについて意見交換など。

6. 第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム実施報告

資料3「第3回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」について、須藤会長、高木 CPD 委員長・事業企画委員会副委員長・国際委員会委員長より実施報告があった。参加者は一般、登壇者、事業企画関係者を含めて87名であった。

・ 登壇者のご発表の概要は以下の通りである。

第一部 「技術者の役割・未来」～技術者のダイバシティー

大島まり先生からは、機械学会でのダイバシティーの取り組み(Ladies' Association of JSME、女性みらい賞など)の紹介の他、教育現場では男女の違いは無いが、大学受験で理系文系が分かれており職業選択にも尾を引いてしまうことが指摘された。ベンチャー・ジェンチャン先生からは、ダイバシティーの成功例として、デザイン・人間工学・UX・制御工学・電子工学・AI・感性の専門家チームによるロボット開発が紹介された。塚原健一先生からは、アジア開発銀行等の海外機関では女性比率の目標値40%の達成が目前であり、今後日本でも、組織的サポートと生活支援が必要であることが指摘された。水本伸子氏からは、IHIの経営理念は、人材こそが最大かつ唯一の財産であるとしており、価値創造プロセスとしてのダイバシティー&インクルージョンを挙げているので、今後一層、女性を活用していくことが紹介された。山本佳世子氏からは、自身の経験から、理系女子へのアドバイスとして、ネットワーキングで仲間を作り共感しつつキャリア強化のポイントを学ぶことや、もっと自信を持つことが述べられた。

第二部 「未来を拓く工学」～カーボンニュートラルへの挑戦～

有木和春氏からは、地熱発電は安定した電源であり、日本は地熱資源に恵まれており50年以上の運転実施がある一方、地下資源開発、事業化の難しさについて述べられた。江守正多氏からは、カーボンニュートラルの戦略の評価として、新たに ELSI の Ethical

からの評価に取り組んでいることが紹介された。洲崎誠氏からは、CO2 貯留では、CO2 の回収、輸送、転換利用のすべてがつながる必要があり、バリューチェーンを接続していく取組が重要であるとの指摘があった。関正雄氏からは、カーボンニュートラルの達成には、社会経済システムの大変革が必要で、そのためにはマルチステークホルダーによる協働が必要であるとの指摘があった。矢部彰氏からは、カーボンニュートラル実現のためには、工学に関連する多くの技術が関り、また、CO2 排出削減コストを大幅に低減することが重要であるとの指摘があった。

- ・登壇者からも、相互の意見交換は有意義であった、との感想を頂いている。
- ・開催記録をしっかりと残しておくべきことが指摘された。なお、登壇者の了解が得られたプレゼン資料は、日本工学会の Web ページに掲載予定である。

7. 次回開催予定について

今回は、2022 年 5 月 23 日（月）午後、あるいは 5 月 27 日（金）午前に設定予定の ECE プログラム認定委員会に引き続き開催することとした。

以上